

医療・バイオ

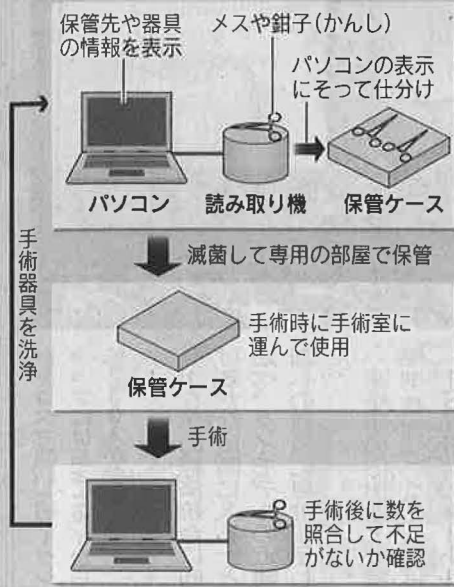
医療現場では効率化が求められる一方で、医療事故防止など高い安全性が要求されている。こうした状況に着目し、医療機器製造の瑞穂医科工業(東京・文京、根本喬社長)はメスなどの手術器具に2次元コードを刻印し、専用読み取り機で簡単に数などを管理できるシステムの導入を進めている。海外からの安価な手術器具に対抗し、差別化を図る狙いもある。

「1回の手術の際に使うメスや鉗子(かんし)は100本以上。それを一本一本数えていけばミスも起こる。医療現場の負担を減らし、安全性の向上につながるればと考えた」。瑞穂医科工業の薬事・品質保証部の住

手術器具を効率管理

瑞穂医科工業

2次元コードで手術器具を管理する仕組み



2次元コード刻印 使用履歴も把握

医療事故防止に期待

保管すると、すべてそろっていないことが契機になったという。また、使用した器具を手術後に読み取り機にかき、登録してある本数と照合すれば、数が足りない場合に分かる。

医療器具の数を正確に把握できれば、手術の際に誤って患者体内に器具が残されたままになる事故を防ぐことができる。保管の際に紙に記録したりする必要がないため、数え間違いや記入ミスも防げるという。

これまでに10程度の病院が導入した。年間数千例の手術を実施する病院では、感染症防止で新たなガイドラインが作られて医療器具を正確に管理することが必要になったものの、人手では追いつかないことが契機になったという。

瑞穂医科工業では新潟県の工場に約4000万円を投じて2次元コードを刻印するレーザー装置を導入した。年内までにメスや鉗子など製造するすべての製品に2次元コードを刻印できる体制を整える予定だ。学会でセミナーを開くなどしてシステムの利便性を訴えかけ、販売を広げる。

瑞穂医科工業がこの管理システムを開発した背景には、輸入品との競争が激しくなっていることがある。厚生労働省がまとめる薬事工業生産動態調査によると、メスなどの手術器具の2011年の国内の生産額が約155億円に対し、輸入金額は289億円。海外からの安価な輸入製品が多く入ってきている。

同社では管理システムで付加価値を高め、病院への器具販売につなげていきたい考え。医療現場ではこれまで、器具が納入された時期が曖昧になり、耐用年数を超えて使用されることもあった。「買い替える時期を明確化できるので、販促にもつながるのではないかと手術機器事業部の富永剛部長は話す。

人手不足など医療現場が抱える課題にきめ細かく対応した商品開発を進めることで、輸入品との競争のなかでも商機をつかむことができるといえる。

(香月夏子)

歯磨きゲーム感覚で練習

モニターにキャラ 時間の目安確認

歯科用機械メーカーの吉田製作所(東京・墨田、山中通三社長)は歯磨きを練習できる洗面台「ハビット」を開発し、受注を始めた。ゲーム感覚で歯磨きができる洗面台「ハビット」

洗面台にはモニターが設置されており、その前で専用の歯ブラシで歯磨きをする。モニターにはキャラクターが表示され、歯磨きの進捗や時間を確認できる。また、歯磨きの回数や時間を記録し、過去の歯磨き履歴を確認できる。さらに、歯磨きの回数や時間を記録し、過去の歯磨き履歴を確認できる。さらに、歯磨きの回数や時間を記録し、過去の歯磨き履歴を確認できる。

るように、歯を磨く間にクイズを出す機能なども搭載しており、体の動きを感じする赤外線センサーで操作する。

今後、歯ブラシの動いた軌跡を記録して、磨き方の癖が一目でわかる分析機能なども追加する予定。

価格は100万円程度を想定している。歯科医

し、治療を待つ間など使用してもらおう。歯科医院内に設置済みの洗面台にモニターやカメラなどを後から設置する販売方式も検討している。

歯科医院の数は全国で約6万8000になる。虫歯の患者は減少傾向にあり競争が激しくなっている。従来の治療だけでなく、歯垢(しこう)の

か、歯磨き教室を開くなど予防を軸に集客に力を入れる歯科医が増えている。

吉田製作所は歯科用の医療機器などを手がけており、2012年3月期の売上高は約116億円。同社では今後、機能などを拡張しながらハビットを商業施設や駅、学校などにも設置できないかと考えている。

がん免疫療法の技術提供を開始

東証マザーズ上場のメディネットはがん免疫療法の一つ「NK細胞療法」について、東京都、大阪府などにある瀬田クリニックグループの4医療機関への技術提供を開始したと発表した。NK細胞